

# 「保護者、地域をつなぐ」をキーに 市内の人材やメールボランティアを活用

箕面市立萱野小学校 渡辺信一教諭

## <プロジェクト以前>

平成7年(1995年)に箕面市立萱野小学校(大阪府)に転任しました。箕面市への異動を希望したきっかけは、図書館で授業に必要な絵本を探していたところ、箕面市の図書館が充実していること、MacintoshのGUIのコンピュータが箕面市の学校に導入されていることを知ったからです。

当時、最も印象に残っているのが、山内祐平先生(現・東京大学)の「子どもをコンピュータ嫌いにはいけない」という言葉です。一律に使わせようとすると、合う子どもと合わない子どもがいるでしょう。嫌になり、可能性を摘んでしまうことにならぬよう、必要な時に必要な子どもが使える環境を整えました。

その後、国語科における総合的な学習指導を研究するため、兵庫教育大学大学院に2年間内地留学しました。指導教官の堀江祐爾先生からは、「分かち合い、高め合う」という情報活用やコンピュータ活用の意味を教えてくださいました。大学院への内地留学は10年度に終わりましたが、この間、授業分析のために4年生のクラスを借りて、「雪の事典づくり」という単元を組みました。国語科で雪国の生活について学習する説明文をもとに事典を作るといった内容です。この実践により、情報収集手段としてのインターネットの重要性に気づきました。

## 実践の経過、教訓

### 地域調べの過程で

萱野小学校は100校プロジェクトの採択校で、オープンスクールの学校です。比較的自由に子どもたちがコンピュータを使う環境が整えられ、図書館には市費で専任司書が配置されている恵まれた環境にありました。

財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC)のEスクエア・プロジェクトには11年度から関わりました。まず、「ネットワークを活用した総合学習 伝えよう!! 萱野・かやの・カヤノ」を3年生の総合学習で行いました。最初は、校区で花作りが盛んなので、花をテーマにしましたが、子どもたちは花に興味がなく、活動が盛り上がりませんでしたので、他の担任と相談し、個別に地域調べをすることにしました。その頃、箕面市がメールボランティア(メールで子どもたちの質問に答えてくれる人)を募集しリスト化していたので、子どもたちがメールボランティアに地域のことについて伝える、という仕組みを考えたのです。運動会練習の合間を縫っての実践でした。

12年度は、その発展型として「インターネットやコミュニティ放送を活用した 地域に開かれた学習活動 メールボランティアや情報化推進担当者など学習支援体制を生かす」を実施しました。社会科や



### インターネットやコミュニティ放送を活用した 地域に開かれた学習活動

萱野小学校の実践には、「人や場との出会い」「地域・保護者とともに」「情報を楽しむ」の3つの柱がある。

標題は、4年生「広げよう! コミュニティネットワーク」、2年生「わくわくまちたんけんたい とび出せまちへ」での実践。

4年生では、1学期に浄水場や下水処理場を訪問調査。その時に箕面FMの取材を受けたのが縁で、学校に来てもらいFM放送局の人にラジオ放送に関する話を聞くことに。また、見学した施設について子どもたちが番組にまとめ、実際に放送してもらった。そして、番組を聞いたメールボランティアから、様々な感想が電子メールで届けられた。

2学期、3学期にも子どもたちの番組を放送。環境問題に取り組む大学生などと新たな出会いが生まれた。

[http://www.cec.or.jp/es/E-square/gakko/h12houkoku/20\\_37.htm](http://www.cec.or.jp/es/E-square/gakko/h12houkoku/20_37.htm)

生活科の学習の中で、メールボランティアとの交流を取り入れました(囲み欄参照)。続いて、13年度に行ったのが「ネットワークを活用した小学校国語科学習指導 保護者・地域と協働で文学作品を読む」です。私の専門である国語に係る内容で、「群読」を1学期、「ブックトーク」を2学期と、2つの形態で取り組みました。群読は、一つの詩を複数の子どもで読むことで、ある行は全員、他は1人、2人と変化をつけて行う活動です。複数のメンバーで詩の読み方を相談し、「この詩はこういう意味がある」と読みを深めることができます。ブックトークは、「冒険」や「生き物」など、一人一人が自分なりにテーマを決めて本を探し、「これとこれをつないで皆に紹介する」といった学習活動で、そこにコンピュータを活用しました。子どもたちは、同じ詩や本でも様々な読み取り方があることを実感できたと思います。



国語「ブックトーク」の活動で

これらの実践では、コンピュータを活用して、互いの持つ情報を分かち合い、高め合う経験を大切にしています。インターネットで、学校と保護者、地域をつなぐことにより、様々な出会いを楽しむことができました。

3年間のプロジェクトは、学校内外から多数の参加があって実現したものです。それゆえの困難や課題もありましたが、これからの教育には、ぜひとも必要なことでしょう。

現在、箕面市はエデュマート(ネットワークを通じた教育用コンテンツの配信実験・15年度で終了:総務省)の実証実験に参加しており、萱野小学校でも、若手が中心となってデジタルコンテンツを活用した実践研究を行っています。

## 10年間を振り返って

### 「児童の可能性を開花させる」がICT活用の原動力

私がICTを活用し続けているのは、下記の5つの要因が大きく絡んでいます。また、教師は「子どもの可能性を十分開花させる責任がある」、「最善を提供する必要がある」と考えているからです。

#### <成功の秘訣>

私自身は、「ネットワーク、つなぐ、結びつける」をキーワードに、総合的な学習活動の中で、保護者をつなぐ、地域をつなぐ、など様々なものをつなぎたいと考えていました。うまくいかないこともありますが、様々な経験を通して「子どもたちの中に何か残せることができれば」と願っています。この10年間を振り返ってみて、実践を成功させるためには次の5つの要因が大切だと考えます。

#### リスクテイキング

リスクを取ることも重要です。私の場合、箕面市への転任を希望したことも大きな決断でした。また、内地留学もチャレンジに近かったことですが、結果的には良い学習ができました。

#### 好奇心

これは、すべてについての原動力です。これは面白そうだというアイデアを持ち続けること。それがなくなるとつまらない毎日になってしまうと思います。

#### こだわり

人は好きなことであれば、継続してやっていくことができるもので、その人の「こだわり」をうまく生かしていくことが大切だと思います。子どもたち一人一人に、例えば天文やコンピュータなどこだわりがあるはずで、それを生かせるかどうかが学校の値打ちではないでしょうか。

#### 柔軟性

計画を立て実施しても、あとは柔軟に変えていくことも重要です。思い通りに進んでいくことはそうそうありません。行き詰ったときに変更することを恐れないこと。変更することにも意味があると思います。

#### 楽観性

「まずは、やってみよう」という雰囲気为学校全体にあったので、様々な実践をすることができました。最初から結果ばかり気にしていたら、できなかったかもしれません。